

インフォメーション・コーナー

会 告

○農業農村工学会平成 28 年度定時総会（通算第 49 回）の開催について 5 月 30 日開催	86
○平成 27 年度全国土地改良工事等学術技術最優秀賞の表彰について	86
○平成 28 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い 申込締切 6 月 15 日	87
○サマーセミナー 2016 参加者募集！（第 1 報） 9 月 1~3 日開催	87
○「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」の発行について	87
○「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」の発行について（再）	88
○平成 28 年度「研究グループ」の助成希望者募集について（再） 申請締切 6 月 30 日	89
○平成 28 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 16 日	89
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお祝い	90
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	90
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	90
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	91
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局について	92
○第 71 回中国四国支部講演会ならびに第 40 回地方講習会の開催について（第 1 報） 10 月 27, 28 日開催	93
○第 60 回粘土科学討論会の開催について 講演申込締切 6 月 24 日	93
○第 18 回キャビテーションに関するシンポジウム講演論文の募集について 講演申込締切 7 月 25 日	94
○全国高等学校農業教育研究協議会環境技術・創造部会の開催について 8 月 3, 4 日開催	94
農業農村工学会論文集内容紹介	95
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	96
受入れ図書	97
文献目録	97
学会記事	99

第 84 巻第 6 号予定

展望：広田純一

小特集：東日本大震災から 5 年（仮）

- ▷ 報文：青森県太平洋沿岸部の津波被災農地周辺の井戸水質の動向：遠藤 明
- ▷ 報文：津波被災農地の確実な復旧に必要な塩害対策：千葉克己ほか
- ▷ 報文：放射性セシウムの土壌中の挙動と水系への流出：塩沢 昌
- ▷ 報文：飯館村における村学民協働による農地除染と農業再生の試み：溝口 勝
- ▷ 報文：東京農業大学における東日本大震災に関するこれまでの研究：藤川智紀ほか
- ▷ 報文：仮設住宅団地のコミュニティ形成に関する実践支援と研究：中島正裕
- ▷ 報文：震災経験を今後の災害復旧に生かす「現場知」の収集：有田博之ほか
- ▷ 報文：東日本大震災から 5 年間の農研機構・農工研の技術支援：鈴木尚登ほか
- ▷ 報文：福島県内小学校における復興農学出前授業：加藤千尋ほか

技術レポート

- 北海道支部：農業用排水路の洪水被害とその発生要因：山根隆志ほか
- 東北支部：野川地区の農業用幹線用水路を利用した小水力発電の事例：柴田三郎ほか
- 関東支部：農業用排水路の流域変更整備による防災対策：大沼拓矢
- 京都支部：パイプラインを活用した水田園芸実証試験：大谷寛幸
- 中国四国支部：堰樋堰の施工事例：大野誠司
- 九州沖縄支部：山口ダムの機能診断事例：清田真帆ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年6月16日	資源循環研究部会	平成28年度研究発表会 Ⓟ	水循環・バイオマス利活用に係る研究発表および事例報告	東京都	84巻1号
平成28年6月25日	技術者教育認定に関する検討委員会	平成28年度JABEE農学系分野審査講習会 Ⓟ	—	東京都	84巻5号
平成28年8月30日～9月2日	大会運営委員会	平成28年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	仙台市	83巻12号 84巻1,4号
平成28年9月1～3日	サマーセミナー2016実行委員会	サマーセミナー2016	農業、農業工学の現状・課題・将来についての問題意識の共有	仙台市	84巻5号
平成28年10月20,21日(予定)	九州沖縄支部	平成28年度支部大会 Ⓟ	—	鹿児島市	84巻4号
平成28年10月27,28日	中国四国支部	第71回支部講演会・第40回地方講習会 Ⓟ	—	松山市	84巻5号
平成28年11月16,17日	京都支部	第73回研究発表会 Ⓟ	—	大阪市	84巻4号

農業農村工学会平成28年度定時総会（通算第49回）の開催について

公益社団法人農業農村工学会定款第18条により、平成28年度定時総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席下さるようご案内申し上げます。なお、定款第18条4項により、正会員および名誉会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

記

- 日時 平成28年5月30日(月) 14:30～15:30
- 場所 農業土木会館2階A会議室

3. 議案

審議事項

- 平成27年度事業報告
- 平成27年度決算
- 理事及び監事の選任
- 名誉会員の推挙

報告事項

- 平成28年度事業計画
- 平成28年度収支予算

平成27年度全国土地改良工事等学術技術最優秀賞の表彰について

学会では、農政局長等の表彰を受けた優良工事等の中から、将来の技術発展に大きく寄与することが期待される革新的な新技術の提案、導入等を行った工事等を学術的、技術的に評価し表彰することで土地改良事業に関わる新技術の開発、導入を促進することを目的として、農林水産省の後援を受けて全国土地改良優良工事等審査会を設け審査を行ってきました。このほど次の工事が平成27年度全国土地改良工事等学術技術最優秀賞に選ばれました。本年6月20日に表彰式を行います。

受賞者：株式会社奥村組 東急建設株式会社 りんかい日産建設株式会社
((株)奥村組・東急建設(株)・りんかい日産建設(株)九頭竜川下流(二期)農業水利事業河合春近用水路建設工事共同企業体)

対象工事：平成27年度北陸農政局長表彰
九頭竜川下流(二期)農業水利事業 河合春近用水路建設工事

受賞理由：

住宅や公共施設の近傍でのシールド工事において、粘性土層、砂礫層、玉石層など地盤の状態に応じて最適なカッターヘッドを選定して掘削する「スライドカッター工法」を導入することにより、礫の破碎に伴う騒音・振動を低減するとともに、ビットの損耗・交換を抑制した連続掘進を実現した。

また、掘削土を泥水と共にポンプで圧送する泥水循環方式を採用することにより排土に伴う騒音・振動の低減、作業効率の改善を確保するとともに、鋼矢板の打設に「サイレントパイラー」や「騒音・振動の常時監視システム」を活用しつつ特定建設作業における基準値より厳しい規制基準値を二段階で設定することで騒音・振動の抑制を徹底する等により、7kmに及ぶシールド工を完遂した。

この工事は、農業農村整備事業が対象とする口径のシールド工事の技術発展に大きく寄与するものであり学術的にも高く評価できる。

平成 28 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、農学関係学協会が共同で研修会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。奮ってご参加下さい。

なお、本研修会は JABEE 公認で、研修会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日 時 平成 28 年 6 月 25 日 (土) 9:45~17:20
(情報交換会 17:30~)
2. 会 場 東京大学弥生講堂
(東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内)
3. 主 催 農業農村工学会、農学会、森林・自然環境技術者教育会、日本生物工学会
4. 参加費 5,000 円 (当日、現金で支払い)
情報交換会費: 2,000 円 (当日、現金で支払い)
5. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚あて
E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp
6. 申込締切 平成 28 年 6 月 15 日 (水)

7. プログラム (案)

- 9:00~ 受付開始
- 9:45~ 9:50 オリエンテーション
- 9:50~10:00 開会の挨拶
- 10:00~10:50 JABEE 認定制度の考え方と基本方針の説明
- 10:50~11:40 JABEE 認定基準の解説
- 11:40~12:10 社会的背景、技術士制度との関係説明 (昼食)
- 13:10~13:50 認定・審査の手順と方法、審査手引きの解説
- 13:50~14:40 自己点検書作成の説明
- 14:40~15:10 新基準の注意点 (休憩)
- 15:30~16:20 実地審査の説明
- 16:20~17:20 質疑応答
- 17:30~ 情報交換会

サマーセミナー 2016 参加者募集! (第 1 報)

— 農業, 農業工学の現状・課題・将来についての問題意識の共有 (仮) —

サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者を対象とした院生の自主企画のセミナーです。2013 年以來の 3 年ぶり、17 回目の開催となる今年は学生間の交流をふたたび活性化させることを目標に、「農業、農業工学の現状・課題・将来についての問題意識の共有」というテーマを設定しました。グループディスカッション、現地見学や勉強会などを企画しています。この大きなテーマについてさまざまな立場、専攻、地域の学生が一堂に会し、議論する場を一緒に作り上げていきませんか? 他大学の学生と触れあったり議論をしたりしてみたい方、将来のキャリアを見据え人脈を広げたいという方、あるいは今後の進路について悩んでいるという方も、どんな方でも大歓迎です。同じ農業農村工学を学ぶものとして、いまわたしたちが取り組むべき問題を一緒に考えてゆきましょう!

1. 主 催
農業農村工学会サマーセミナー 2016 実行委員会
小杉重順 (北海道大学大学院農学院)
宮井克弥 (宮城大学大学院食産業学研究所)

樋口慶亮 (東京農工大学大学院連合農学研究科)
辰野宇大 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
田中宣多 (京都大学大学院農学研究科)
今出和成 (岡山大学大学院環境生命科学研究科)
濱田耕佑 (九州大学大学院農学研究科)

2. 日 時 平成 28 年 9 月 1 日 (木) の講演会終了後の夕方から 3 日 (土) まで
3. 開催地 (予定) エスポールみやぎ
(<http://www.seinenkaikan.or.jp/>)
4. 対 象 学部学生、院生、若手研究者
5. 参加費用 (予定) 10,000~15,000 円程度 (宿泊、飲食代込)
6. 詳細・参加申込み
以下のホームページにて随時公開予定です。
ホームページ: <http://ss2016.wp.xdomain.jp/>
7. 問合せ先
E-mail: summerseminar2016@gmail.com

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」の発行について

この度、「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」が平成 28 年 4 月に発行されました。

<技術指針の目的と活用より抜粋>

本技術指針では、水田や用排水路等に生息する魚類など農村地域の生物を保全するため、生物のネットワークの重要性

について整理するとともに、連続性や一体性を持たせるための方策を示すものである。これまで「環境配慮の手引き」によって取りまとめた調査から維持管理に至る各段階の環境配慮の考え方や新たな技術的知見等を踏まえ、水路整備やほ場整備等について工種横断的に環境配慮の考え方を整理しつつ、環境配慮の手法や工法をより具体化するものである。

また、近年、増加している地域づくりの取組は、地域の活性化や環境配慮施設の維持管理の面からも有効であることから、調査・計画（第4章）、設計・施工（第5章）、維持管理・モニタリング（第6章）において、地域づくりに関する内容の充実を図るとともに、地域づくりの進め方や合意形成手法に関する基本的な考え方、参考事例を取りまとめ、参考資料として掲載することとした。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

1. 発行書籍

書籍名：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針
監 修：農林水産省農村振興局整備部
発 行：(公社) 農業農村工学会
価 格：2,600 円（消費税8%込、送料学会負担）
規 格：A4 判 152 ページ

改定年月：平成 27 年 5 月

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。
- ③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail または FAX でお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社) 農業農村工学会事務局 図書係
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：suido@jsidre.or.jp

「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」発行のお知らせ（再）

この度、「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」を発行することとなりましたので、お知らせいたします。

初版の「資格試験のための農業農村工学必携」は、「改訂七版 農業農村工学ハンドブック（平成 22 年発行）」をコンパクトに再編集したもので、資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものとして発行されました。

今回の第二版は、初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し、「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。是非ともご購入の上、お役立て下さい。

1. 発行書籍

書籍名：資格試験のための農業農村工学必携 第二版
編 者：公益社団法人 農業農村工学会
発行予定：平成 28 年 5 月
体 裁：B5 判 約 520 ページ
価 格：定価 2,777 円（税込・送料学会負担）
※会員価格の設定はありません。

2. 購入方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。
- ③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail または FAX でお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社) 農業農村工学会事務局 図書係
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：suido@jsidre.or.jp

平成 28 年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再）

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 28 年 6 月 30 日（木）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ参照）で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 28 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 28 年 9 月 16 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。

3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役

立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成28年9月16日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌5月号掲載の問題は6月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成29年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成29年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿

と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。それらは、農村地域のみならず、都市の景観

の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 85 巻（平成 29 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含みます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 平成 28 年 6 月 30 日

夏季 平成 28 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 85 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 29 年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 84 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
84 巻 6 号	東日本大震災から 5 年（仮）	公募なし
7 号	東日本大震災の被災地の課題と展望（仮）：大会特集号	公募なし
8 号	省力的で安全な農作業技術の最前線と基盤整備の挑戦（仮）	公募終了
9 号	圃場モニタリングのためのリモートセンシング技術の最前線（仮）	5 月 16 日
10 号	電気料金の変動を見据えた土地改良（仮）	6 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく

変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

84 巻 9 号テーマ「圃場モニタリングのためのリモートセンシング技術の最前線」(仮)

リモートセンシングは、その広域性・非破壊性・周期性・準リアルタイム性を特徴としたモニタリングの可能性により、農作物の生育状況や品質の広域把握への期待が持たれてきました。しかし、これまでの LANDSAT 衛星画像などのレベルでは、北海道は例外として、日本国内における圃場レベルでのモニタリングは困難でした。2000 年代に入り IKONOS などの高解像度衛星が登場しましたが、その価格・撮影頻度により、当初利用は研究レベルのものに限られてきました。2010 年代に入り、RapidEye, Sentinel (5~10 m 地上分解能, 5 日撮影周期) などの衛星の登場、加えてそのほかの既存高解像度衛星

との複合により、圃場レベルでも詳細な衛星モニタリングが可能となってきています。加えて近年、測量分野において UAV (ドローン) の利用・普及が進んでいますが、その高性能化・安価化により、今後農業分野での利用の促進が期待されます。

本小特集では、このような現状を踏まえ、特に農業従事者への利用普及を視野に入れた、圃場レベルでの広域モニタリング、たとえば作物生育ステージごとの農作物モニタリングや農地環境把握に関わるリモートセンシング技術の最前線と実利用への取組みについての報文を広く募集します。

84 巻 10 号テーマ「電力料金の変動を見据えた土地改良」(仮)

東日本大震災以降の電力料金の値上げにより、灌漑排水用のエネルギーを電力に依存している土地改良区ではその対応に苦慮してきました。2014 年以降、原油・LNG 価格の低下により、発電コストは大幅に低下したものの、再生可能エネルギー発電賦課金などは増額されており、また原子力発電の先行きも不透明な状態にあります。そのため、電力料金の変動に大きく左右されない土地改良施設の整備や管理のあり方を、短期的・長期的視点の両面から検討しておく必要があると考えられます。

そこで、本小特集では、東日本大震災以降高水準にある灌漑排水用電力料金によって変更を余儀なくされた水管理や施設維持の実態、電力コスト縮減のためにこれまで現場で取り組まれてきた対策、灌漑排水システムを構成する各要素における節水・節電に寄与する技術、さらに土地改良施設における新エネルギー導入の効果や課題などについての報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と

2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが 1.151 (2015 年版) と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)

- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (23 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

編集体制

・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)

Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 14 カ国から 23 名

・ Editing Board 26 名

・ Chief Management Editor

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

・ **Managing Editors**

Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

編集事務局 (2015年1月から2017年12月まで) :

・ **Professor Dr. Jin-Yong CHOI**

Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology
Rural Water and Information Engineering Lab.

Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University

1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742

TEL : +82-2-880-4583 FAX : +82-2-873-2087

E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

第71回中国四国支部講演会ならびに第40回地方講習会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

開催日 : 平成28年10月27日 (木)

場 所 : 松山市総合コミュニティセンター

〒790-0012 愛媛県松山市湊町7-5

TEL : 089-921-8222 FAX : 089-931-3304

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課

大竹・犬伏・日野

〒790-8570 松山市一番町4-4-2

TEL : 089-912-2540 FAX : 089-912-2534

E-mail : nouchiseibi@pref.ehime.jp

2. 情報交換会

開催日 : 平成28年10月27日 (木)

場 所 : 未定

(2) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

愛媛大学大学院農学研究科地域環境工学コース

治多伸介

〒790-8566 松山市樽味3-5-7

TEL&FAX : 089-946-9963

E-mail : haruta@agr.ehime-u.ac.jp

3. 地方講習会

開催日 : 平成28年10月28日 (金)

場 所 : 松山市総合コミュニティセンター

4. 問合せ先

※参加申込窓口と原稿提出窓口を別にしていますので、ご注意ください。

(1) 講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先

5. 詳 細

講演会・情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌6月号以降に掲載予定の第2報でお知らせします。

第60回粘土科学討論会の開催について

1. 主 催 日本粘土学会

共催・後援 農業農村工学会ほか20団体 (予定)

2. 開催日 平成28年9月15日 (木) ~ 17日 (土)

3. 場 所 九州大学 医系キャンパス

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

4. 主要日程

・ 講演の申込期間 6月13日 (月) ~ 24日 (金)

・ 講演要旨送付締切 7月1日 (金)

・ 参加登録料 (要旨集代込) ・懇親会費 ・見学会費の

払込期間 6月13日 (月) ~ 7月1日 (金)

・ 討論会・見学会 9月15日(木)～17日(土)
詳細は下記ホームページをご覧ください。

5. 問合せ先

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院農学研究院土壌学研究室内

第60回粘土科学討論会実行委員会

FAX: 092-642-2844

E-mail: clay60th@agr.kyushu-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.cssj2.org/>

第18回キャビテーションに関するシンポジウム講演論文の募集について

第18回キャビテーションに関するシンポジウムを下記により開催いたします。本シンポジウムは、異なった専門分野の研究者、技術者がキャビテーションという共通の問題に対する認識を深めるとい趣旨で、日本学術会議の主催により、過去17回開催されてまいりました。

今回も特別講演や特別企画のほかに、参加者のオリジナルな論文を公募いたします。内容は、キャビテーションに関するものであれば、ジャンルを問いません。下記項目4.にありますように、今回も(1)普通講演のほかに、(2)特別企画の講演の論文を募集いたしますので、どうぞ多数講演論文をお寄せいただきますよう、ご案内申し上げます。

1. 主催 日本学術会議第三部(予定)、第18回キャビテーションに関するシンポジウム実行委員会
- 共催 農業農村工学会ほか23学協会(予定)
2. 開催日 平成28年12月8日(木)、9日(金)
3. 場所 九州大学医学部百年講堂
〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
4. 講演種別
 - (1) 普通講演: 内容未発表の論文、または話題提供論文

- (2) 特別企画の講演論文: 以下の二つの特別企画を予定

・ キャビテーションエロージョンの研究の進展(仮題)
(企画者: 東北大学 祖山 均教授, 荏原製作所 能見基彦博士)

・ 流体機械(ポンプ, 水車, プロペラ等)の開発におけるキャビテーションの諸課題(企画者: 九州大学 安東 潤教授, 九州大学 渡邊 聡教授)

5. 講演申込締切 平成28年7月25日(月)
ホームページ上にて電子ファイルにより申し込んで下さい。
6. 原稿締切 平成28年10月17日(月)
ホームページ上にて電子ファイルにより投稿して下さい。
なお、従来どおり審査の上採否を決定します。
7. 問合せ先
〒819-0395 福岡市西区元岡 744
九州大学大学院工学研究院 安東 潤教授
TEL: 092-802-3449(直通) FAX: 092-802-3368
E-mail: cav18@nams.kyushu-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.nams.kyushu-u.ac.jp/~cav18/>
詳しくはホームページをご覧ください。

全国高等学校農業教育研究協議会環境技術・創造部会の開催について

全国高等学校農業教育研究協議会環境技術・創造部会(森林・林業, 農業土木, 造園)は、全国の高等学校環境系教職員が一堂に会し、環境教育の直面する諸問題を研究協議し、また、会員相互の交流と研修に努め、今後の環境教育の充実・発展に寄与するとともに資質の向上を図ることを目的として、分野ごとに協議会を実施していましたが、平成28年度からは分野ごとの実施ではなく、下記のとおり全国高等学校農業教育研究協議会環境技術・創造部会として協議会を実施することになりましたので、お知らせいたします。

1. 主催 全国農業高等学校長協会
- 後援 農業農村工学会ほか
2. 開催日 平成28年8月3日(水)～4日(木)
3. 場所 東京都立農芸高等学校

〒167-0035 東京都杉並区今川 3-25-1

4. 対象者および予定人数
全国の環境系学科(造園系, 農業土木系, 森林・林業系)に関係する教職員。(約100人)
5. 講師
指導講師 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
指導助言 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
6. 問合せ先
〒167-0035 東京都杉並区今川 3-25-1
東京都立農芸高等学校 大会実施委員長 大畑哲也
TEL: 03-3399-0191 FAX: 03-3399-3996